

## 2006 年度 小委員会活動成果報告

(2007 年 2 月 21 日作成)

|                              |   |                               |                               |
|------------------------------|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 小委員会名                        | 期限付き建築物リユース小委員会   |                               | 主 査 名：柳澤孝次<br>就任年月：2005 年 4 月 |
| 所属本委員会<br>(所属運営委員会)          | 構造委員会<br>仮設構造運営委員会  |                               | 委員長名：和田 章<br>主 査 名：宮崎祐助       |
| 設 置 期 間                      | 2005 年 3 月 ~ 2009 年 3 月   |                               |                               |
| 設 置 目 的<br>各年度活動計画<br>(箇条書き) | 期限付き建築物の期限満了後に、各種部材を再利用するための条件や考え方を整理し、啓蒙書を作成する。<br>2005 年度：関連情報収集、関連キーワードの整理分類、目次案の作成<br>2006,7 年度：啓蒙書素案の作成、PD 等による会員との意見交換の実施<br>2008 年度：啓蒙書の作成   |                               |                               |
| 委員構成<br>(委員名(所属))            | 委員公募の有無：無   |                               |                               |
|                              | 柳澤孝次主査(やなぎさわ伝統建築研究室)、軽部正彦幹事(森林総合研究所)、大山宏(HRS オフィス)、川合廣樹(EQE インターナショナル)、木村麗(建材試験センター)、木村衛(エイ構造研)、小松幸夫(早稲田大学)、坂井正美(関東学院大学)、千田光(住友金属工業)、中島裕輔(工学院大学)、橋元正美(清水建設)、室田達郎(なし)、国枝明(アルミニウム建築構造協議会)、島村高平(大成建設設計部) |                               |                               |
| 設置 WG<br>(WG 名：目的)           |   |                               |                               |
| 2006 年度予算                    | 144,000 円   | ホームページ公開の有無：無<br>委員会 HP アドレス： |                               |

| 項 目                            | 自己評価   |
|--------------------------------|--|
| 委員会開催数                         | 10 回(年度内計画を含む)   |
| 刊行物<br>(シンポジウム資料等は<br>除く)      |  |
| 講習会                            |  |
| 催し物<br>(シンポジウム・セミナー・研究会・見学会等)  |  |
| 大会研究集会                         | 1. PD：期限付き建築物の再使用・再利用を探る 構造部材のリユースについて<br>『構造部門(仮設構造)パネルディスカッション資料：同上』参加者数 43 名  |
| 対外的意見表明・パブリックコメント等             | 1. イノベーションの創造に資する国土交通分野における技術革新の提案<br>(2006/12/15 締切・提出)   |
| 目標の達成度<br>(当初の活動計画と得られた成果との関係) | 1. 本年度大会において PD を開催し、多数会員の参加と貴重な意見を得た。<br>2. PD 開催に向けて取りまとめた資料が目標とする啓蒙書の原型となった。<br>3. 現在、成果物の目次案を改定しながら、記述内容の議論を深めている。 |
| 委員会活動の問題点・課題                   |  |